

H27年度 高崎商科大学附属高等学校 学校評価一覧表(様式Ⅱ)

2枚中の1

羅 針 盤			担当部署	第1回自己評価(9月)		第2回自己評価(3月)		次年度の課題・改善方策(3月)	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		達成度	改善状況のまとめ	達成度	改善状況のまとめ		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育を行っていますか。	1 2科6コースの教育課程や充実した課外活動等、本校の教育活動に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・企画運営委員会 (アンケートNo.1&12)	A	「よくあてはまる」+「当てはまる」を合わせると生徒86%、保護者87%と高い数字となっている。各科コースの内容をよく理解し、各科コースの内容に満足していることが伺える。	A	「よくあてはまる」+「当てはまる」を合わせると生徒81%、保護者83%になった。	各科コースの取り組みが定着し、生徒・保護者が満足していることが伺える。今後もさらに各科コースの特色を発展させ、カリキュラムマネジメントの確立も検討したい。	
		2 「総合的な学習」「課題研究」に主体的(課題設定、調査研究、まとめ、発表)に取り組んだと自己評価している生徒が70%以上である。	・教科指導委員会 (アンケートNo.2&13)	A	積極的に取り組んでいると回答している生徒が昨年79%から83%になった。生徒の自発的な活動を重視し、思考力と表現力を高めることが重要。	A	積極的に取り組んでいると回答している生徒が81%になった。	さらに探求型の学習を充実させたい。「テーマ」を設定し、調べまとめ発表する学習の質を高める指導を展開したい。ICT活用も検討したい。	
		3 放課後、学習室を利用して、自主学習をする生徒が1日20人以上である。	・図書委員会 ・科、コース委員会	B	利用時間帯のピークは18時、30名を超えることが多くなり定着してきている。19時までは平均10名利用している。	A	定期テスト前だけでなく受験へ向けた勉強のための利用者が増加している。	一時的にはあるが収容しきれない時があり、進路資料室に回すケースもある。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	1 生徒による授業アンケートを年2回実施し、授業改善に活かしている。	・教科指導委員会	B	教科会議でアンケートの結果について意見交換し、授業を改善。各教科で公開授業の実施。予備校夏期講習等の研修成果を発表。	B	授業アンケートを中心に8月教科会議を実施した。公開授業は今年度7名の教員が実施した。	授業アンケートを使い指導法を改善し、全教職員の授業点検により、授業の質を向上させたい。能動的授業の導入も重要である。	
		2 生徒の実態をふまえた到達度に応じた学習指導を実施し、授業に対する満足感をもっている生徒が70%以上である。	・教科指導委員会 (アンケートNo.3&14)	A	到達度に応じた学習指導で満足感を持っている生徒が84%である。生徒の実態を踏まえ、生徒が満足する授業の工夫が重要。	B	授業が分かりやすく工夫されていると感じている生徒が73%になった。	進路実現のためには、個々の生徒の能力に対応した指導が重要である。基礎基本を定着し、発展問題を考察できる生徒を増やしたい。	
		3 学校図書館における1日平均貸し出し数が30冊以上である。	・図書委員会	C	貸出数が10冊未満になる日がある。情報機器の普及により、活字離れ読書離れを強く感じる。委員会として今後の課題である。	C	ペーパー離れという世の風潮のとおり、利用者数は少数の横ばい状態である。	生徒の興味を惹くような企画等、読書に興味を持たせる工夫・企画を考えていく必要があると思われる。	
	3 生徒は確かな学力を身につけていますか。	1 各教科の課題に積極的に取り組み、意欲を持って授業に臨んでいる生徒が70%以上である。	・教科指導委員会 (アンケートNo.4&15)	A	課題に積極的に取組、意欲を持って授業に取り組んでいる生徒が83%である。個々の生徒が目標を持つての努力することが必要。	A	満足感、達成感を持っている生徒が79%になった。授業に臨む動機付けを重視し、生徒の集中力を高めることが重要である。	授業に対する満足感、達成感を高めるためには自分の学力を客観的に認識し、家庭学習の定着が必要である。	
		2 学習内容の定着を図り、授業以外の(放課後、家庭)学習時間が1日平均1時間以上の生徒は過半数である。	・教科指導委員会 (アンケートNo.5&16)	C	家庭学習1時間以上の生徒は昨年49%から47%になった。目標の過半数にするには、日常の継続した指導が必要。	C	家庭学習1時間以上の生徒は43%になった。特選は86%である。家庭学習は、科・コースの差が大きく、まだ全体として定着していない。	学習習慣の確立を伝える個人面談の指導を重視したい。最終的には、自己管理能力を高める指導が重要である。	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	1 組織的、継続的な指導をしていますか。	1 科・コース委員会、生徒指導委員会において、目標達成のための会議を週1回程度行っている。定期的に「科・コース通信」を発行する。	・科・コース委員会 ・生徒指導委員会	A	会議は有効に機能し、科・コース通信も発行されている。	A	それぞれのコースは独自に努力している。	本校の目指す方向性を見定め、全体としてどういう方向をめざし、そのために各科コースがどうあるべきか検討の余地ありと思われる。	
		2 教員による週番業務、及び学期に1度の全校安全点検にて、校外内の清掃状況、管理状況の点検、確認を行っている。ハザードマップを作成し、外部講師、職員による交通指導を行っている。	・生徒指導委員会	B	年度初めの4・5月に集中して自転車の接触事故が多発した。4月に1年生対象の交通講話も実施されているが抑止するためには更なる工夫が必要か。	B	大きな事故に至らないまでも、自転車の事故・マナー違反についてはここ数年横ばいである。1学期に17件・2学期7件の事故届が出ている。	高校生の自転車事故・マナーについては群馬県は全校でもワーストのほうである。繰り返し地道に指導していくしかない。	
		2 生徒は健康で規則正しい生活を送っていますか。	1 転退学者数、年間15人以下、出席率99%以上を目標とする。	・生徒指導委員会	A	転退学者7名、出席率99.3%。良好。	B	転退学者、現時点で15名。今後の学年末に数名が追加になると思われる。出席率は99.1%と目標を達成できた。	家庭の事情・健康の理由等でやむをえないものが多かったが、3年生での問題行動がめだった。入学時より問題の多い学年は改善が厳しい。
		2 高校生らしい服装、頭髪、言葉遣いをしている生徒が90%以上である。	・生徒指導委員会(アンケートNo.6&17)	A	アンケート結果では93.3%。極端に目立つ生徒は見かけなくなっている。	A	生徒、保護者ともに92%と目標達成。	特定の生徒については、繰り返し同じことの注意の繰り返しであるが最後まであきらめない指導が大切。	
	3 登下校時や授業の開始・終了時等、挨拶をする習慣があると自己評価する生徒が80%以上である。	・生徒指導委員会(アンケートNo.7&18)	A	アンケート結果では83.5%声の大小はあるもののおおむね良好。	A	生徒80%・保護者81%と目標達成。	部活動の生徒に協力を求め、朝の校門にてあいさつ運動を展開するなど生徒の協力が良い方向に作用した。		
	4 食事・睡眠など基本的な生活習慣のリズムが一定していると自己評価している生徒が90%以上である。	・保健委員会 (アンケートNo.8&19)	B	生活のリズムが一定していると回答した生徒85%、保護者86%と、目標達成まであと一歩だった。	B	生徒83%、保護者85%と前回より若干低下してしまった。	保健だよりの配布に加え、科・コース集会や担任からの全体指導、保健室での個別指導などに引き続き取組目標達成を目指す。		

H27年度 高崎商科大学附属高等学校 学校評価一覧表(様式Ⅱ)

2枚中の2

羅 針 盤			担当部署	第1回自己評価(9月)		第2回自己評価(3月)		次年度の課題・改善方策(3月)
評価対象	評価項目	具体的数値項目		達成度	改善状況のまとめ	達成度	改善状況のまとめ	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	1 計画的な指導を行っていますか。	1 各学年で進路指導関係の行事を計画する。各行事に積極的に参加している生徒が70%以上である。	進路指導委員会 (アンケートNo.9&20)	B	よく当てはまる、当てはまると答えている生徒が69%である。学年が上がるにつれ、パーセンテージは上がる。	A	よく当てはまる、当てはまると答えている生徒が81%に上昇している。	内容の検討を続け、改善の余地をさぐる。
		2 生徒の将来の志望について理解している親が70%以上である。	進路指導委員会 (アンケートNo.10&21)	A	よく当てはまる、当てはまると答えている保護者が81%であり、家庭でのコミュニケーションはとれているよである。	A	よく当てはまる、当てはまると答えている保護者が76%に低下している。	保護者会等の有効活用をはかる。
	2 生徒自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいる。	1 自分の適性を理解している生徒が、70%以上である。	進路指導委員会 (アンケートNo.11&22)	B	理解していると答えている生徒が69%である。	B	理解していると答えている生徒が68%で前回とほぼ同じである。	個人面談や適性検査などを活用して自己の適性について考える機会を増やす。
		2 進路実現に向け積極的に取り組む指導を重視する。センター受験者100名以上、国公立大学30名以上、中堅以上私大合格者50名以上を目指す。	進路指導委員会	B	コースによって差はあるが、進路実現に向けて、積極的に取り組む生徒の割合は高くなってきた。センター受験予定の生徒も、100名以上となりそうである。	B	センター試験出願も150名を教え、意識の高まりを感じる。国公立を含めた合格者は昨年を上回った。	来年度の特選・特進3年の生徒数は今年度よりも50名ほど少なくなるためセンター及び合格実績をどのように伸ばすかは大きな課題である。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	1 家庭・中学校等に積極的に情報発信をしていますか。	1 学年・学級懇談会に積極的に参加している父母が95%以上である。	・各学年	A	最終参加率が96.7%であり、ほとんどの保護者が本校の懇談会の趣旨をよく理解し、協力的であると言える。	A	第一回評価と同じ。	内容の検討も続けながら出席率の維持をはかる。
		2 学校の教育活動を広く理解してもらうため、ホームページの更新を週2回程度のペースで、また必要に応じて実施している。	・入試広報委員会	A	学校の教育活動を広く理解してもらうため、ホームページの更新を、昨年度の月2回程度の更新から、週2回程度のペースで更新を行い、また必要に応じて実施した。	A	ホームページの更新を、週2回程度(月8回)のペースで更新を行い、また必要に応じて実施した。これにより、本校の教育内容について詳しく提示できた。	来年度は、更新回数だけでなく、ホームページの表現方法として、動画による学校行事の紹介や英語版による表示も考えていた。
		3 中学校に本校の特色や教育活動について理解してもらうため、中学校訪問、オープンスクール等を実施し、3,000名以上の中学生の参加、総受験者数5,000名以上を募り、定員確保に努める。	・広報委員会 ・教務	B	オープンスクール7回を終えた段階で、2,404名の参加があった。今後2回(10月、11月)を残しているの、何とか3,000名をクリアしたい。	B	オープンスクール9回を終え最終的に、3,6084名の参加となり、目標の3,000名をクリアした。受験者申し込み人数は、4,336名で目標の、5,000名には達しなかった。	フリートライアルテストは、今年度お休みとしたが、受験者人数への影響は少なかったと思われる。夏の部活動オープンスクールは、今後も熱中症対策は不可欠である。
Ⅵ 施設設備の安全・維持管理のための点検を行っていますか。	1 校地・校舎の整備状況を確認し定期点検を励行していますか。	1 平成27年度私立学校施設整備費補助金の申請が3月に完了し、交付内定が5月以降になされる予定なので、それを待っての契約、工事の開始となる。耐震補強計画は、今年度で100%完了となる	・事務	B	補助金の事前着手承認申請が許可され6月に工事契約の締結。耐震補強工事及びエコキャンパス推進事業工事が予定よりも遅れたが開始となった。大旨工程表通りに順調に進んでいる	B	6月から始まった第2・4校舎の耐震・省エネ工事も順調に推移し、10月に補助金の内定が出て、省エネ工事が1月上旬、耐震補強工事が2月上旬に完成して24年度から始まった耐震補強工事も100%完了する	耐震化で解体になった小体育館の代替え施設、老朽化した武道館、同窓会館等々、今後補助金を利用して計画的に整備をしていく必要がある